

備前市事務事業評価表

事務事業名	水質汚濁防止事業（備前）	コード	担当課	環境課 保全係
		01-02-01-02	担当者	兼光 裕一
事業実施期間	平成17年3月22日～			
総合計画 事業（政策）体系	大項目	安全で快適に暮らせるまちづくり		
	中項目	自然と共生するまちづくり		
	小項目	環境保全		
	施策	水質汚濁の防止		

事業について	
目的	休廃止鉱山から流出する強酸性水の処理及び鉱害防止工事を実施することにより金剛川・八塔寺川の水質汚濁と農作物への被害を防止する。定期的な水質検査によって市内各地の監視を行い、生活環境の保全と水質汚濁防止を図る。
対象（誰のために）	市民
内容	市内3箇所の坑廃水処理場（野谷・金谷・板屋）で坑廃水の中和処理を行う。和意谷地区で鉱害防止工事を実施。主要河川・池・海域に水質測定地点を設け定期的な分析を行う。

事業の結果	17年度		
実施項目	回数など（単位）	回数など（単位）	回数など（単位）
坑廃水処理水量	147,063 m ³		
環境水調査箇所	50 箇所		

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	89,139	国庫補助金等	83,240	直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	15,890	受益者負担	784	人件費		受益者負担	
	市債	0	市債	0		市債	0	
合計	105,029	一般財源等	21,005	合計	0	一般財源等	0	

必要人員	1.90	人		人
結果指標名	坑廃水処理水量			
結果指標量	147,063			
単位	m ³			
対前年比	—			
事業費	58,524,894	円		円
単当たりコスト①	398	円		円
結果指標名	環境水調査箇所			
結果指標量	50			
単位	箇所			
対前年比	—			
事業費	2,714,000	円		円
単当たりコスト②	54,280	円		円

事業の成果	17年度		
成果指標名	環境基準超過回数	式又は説明	環境水水質検査で環境基準を超過した回数
成果指標量	60		
対前年比	—	0.00%	
到達目標値	50	到達目標年度	平成18年度

事務事業の評価		(平成17年度事業)
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等：水質汚濁防止法
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である
効率性の評価	市の関与の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である
	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である
	手段の最適化	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input checked="" type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input checked="" type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている
有効性の評価	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input checked="" type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい
	目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している
	成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある
市民参画度	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている
	課題認識	坑廃水処理は、半永久に続くものと見込まれるので常時安定した処理を行う必要がある。鉱害防止工事についても和意谷川流域の水質状況を確認しながら施行する必要がある。環境水の測定については、市内の状況が把握でき、監視体制が十分整えられるように測定場所の再編を行っていく必要がある。

総合評価	コ 目的である安定した水処理については達成できている。鉱害に関する被害や苦情もなかったが、水質浄化のコストが増加していることと、処理施設の老朽化等への対応など メ 現在はコスト面で最も安価の方法を検討していく必要がある。環境水測定については概ね環境基準をクリアしていたが、測定地点・項目の見直しが必要である。	評価区分 <A~E> B
------	---	---------------------------

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度結果指標量①	145,000	結果指標量②	47
目標値	結果指標量	50	

改善事項	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
妥当性		野谷坑廃水処理場の自動化	H19~	当面の安定した水処理が可能
効率性		環境水測定地点・項目の見直し	H18	効率的な水質検査の実施が可能

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。